

港区立東町小学校
令和6年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・表現するために必要な語句を身に付け、身に付けた語句を使って適切に文章表現をする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や書き取りや説明文に当てはまる語句を選択する問題では、全国平均点よりも高得点であった。 ・読解問題での選択問題では、正答率が高かった。それに対して、登場人物の気持ちや行動した理由を自力で書く問題では正答率が大変低かった。登場人物の立場になって想像したり自分の考えをもったりして解答することが苦手な児童が多いことが分かった。 ・話すこと、聞くことの問題については全国平均点よりもかなり低い結果であった。選択問題にも関わらず、やり取りをする時にどのような態度や言葉が適切なのか理解が不十分である。相手意識を持ち、より良いやり取りの経験が必要であると考えられる。 ・総合的にみると、知識・技能よりも思考力・判断力・表現力が低いことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語句については、継続して基礎基本の定着を図る。 ・読書の機会を増やし、自分の感想や考えをもち交流する場を増やす。 ・登場人物や場面の背景から読み取ったことを、自分の経験に当てはめて書いて表現する力を高める。他者の考えや思いと比べる経験も必要である。 ・場に合ったやり取りについて、知識・技能を高めて実際にやり取りをする経験の回数を学習中に意図的に増やす。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用して必要な情報を調べてまとめたり、根拠をもって表現したりする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に資料を活用して必要な情報を調べてまとめたり、根拠をもって表現したりすることにおいて、児童の能力に差がある。全体的に児童の思考力、判断力、表現力を伸ばしていく必要がある。 ・5年では、自然災害を防ぐための取組に関し、資料をもとに、その取組の目的について考えたり、年表を読み取ったりする力を伸ばしていく必要がある。 ・6年では、「政治・国際」は、専門用語を把握することと、その詳細な説明を新聞などでまとめていくこと。「歴史」はその事象についての成り立ちや起こりなどについての考えを表現していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことが自分たちの生活においてどのように必要なことであるかを気づかせるようにする。 ・ICT を積極的に活用して、視覚的に理解を深め、学習課題を捉えやすくする。 ・興味関心のある単元を中心に、少人数グループで自分の考えを伝えあったり、クイズ形式等で主体的に参加できるようにしたりして、思考・表現能力を伸ばせるようにする。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・立式の根拠について筋道を立てて考え、説明する資質・能力、作図する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の平均正答率が上がっていた。これは学校全体としての底上げが図れていると考えられ、算数少人数習熟度別指導の成果であるといえる。 ・前年度、D データの活用の結果が全国平均を下回っていたが、今年度は大きく上回る結果となった。 ・半面、立式の根拠説明についてノート指導や全体の場での発表な 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづきを明確にし、習熟度に応じて東京ベシックドリルやまなびポケットを活用し、既習事項の定着度を確認、不十分な場合は、個別指導を行う。 ・低学年では、問題場面を動作化や操作活動を取り入れて問題を理解させる。中学年以降は、問題場面と図や表、式を関連付けて考えさせ説明する場面を充実させる。 ・ICT 機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。 ・学習したことを生活や他の教科でも活用する機

		どを通して支援していく必要がある。	会を増やす。
--	--	-------------------	--------

理科	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自然に親しみ、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する資質・能力	・4・5・6年生では、生物領域に課題がみられる。 ・実験結果をもとに考察したり、グラフなどで分かりやすく記録したりすることが、課題となっている。また、時間がたつと忘れてしまう傾向もあるため、記録をしっかりとるなど、定着させられる手立てを考えていく必要がある。	・児童にとって身近な課題となるよう、自然事象との出会いの場面を工夫し、生活経験に結び付けて考えることができるようにする。 ・児童の興味・関心を引き出し出していけるよう、自分の考えを相手に伝え合う場面を多く設けるとともに、気づきや自分の考えをノートやワークシートに、図や言葉を用いて表現する活動を設けていく。 ・サイエンスアシスタントを活用し、指導法を共有し、指導する。

生活	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現しようとする資質・能力	・身の回りの人や植物に、自ら関わろうとする児童がいた。また、上手に関わったり表現したりするのが難しくなってしまう児童もいた。	・実際に見たり触ったり出会ったりするような場を工夫することで、児童が「こうしたい。」という思いや願いを膨らませ、主体的に活動できるようにする。 ・異学年との交流や認め合いの場、ワークシートなどを用意し、自分や友達の活動のよさに目を向けさせたり、伝え合ったりする機会を設ける。

音楽	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力	・表現したい意欲と表現する技能が合っていないため、技能面を高めていく必要がある。 ・発言する児童が固定化されやすいため、ペア学習やワークシートなど個々の考えを出しやすい環境にする必要がある。	・表現及び鑑賞を通して思考力、判断力、表現力、知識、技能を相互に関わらせながら一体的に育成する。 ・自分の思いや意図を表現に生かせるように発問や場の設定、さらには、児童が安心して表現できる環境、自己のふりかえり、聴き合う場などの場の設定の充実を図る。

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力	・タブレット端末を活用した表現活動を通して、気付いた事柄や創意工夫した事を自分の言葉で詳しくまとめ、振り返る力や次の学習課題に活かす力を高める必要がある。	・発達段階に沿って、様々な材料や用具等による造形活動を充実させ、活動の最後に言葉や考えを整理したり、タブレット端末で振り返りをしたりして、鑑賞の時間を設けるなど、造形的な見方や考え方を広げ、深める等の言語活動の充実を図る。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・家庭の中での自分の役割を見つけ、できることから取り組もうとする。	・裁縫や調理の経験や技術に個人差がある。	・自分の生活を振り返らせ、裁縫や調理など、身の回りで取り組みそうなことを考えられるようにする。 ・家庭内の仕事を話題に挙げ、作品やカードなどで発表する機会を設定する。 ・裁縫やミシンの学習では、授業のはじめに使い方を確認する時間を設ける。教科書の「いつも確かめよう」を活用させたりして、技術を定着させる。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に 基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動に親しむ資質・能力 ・自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断する資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト結果から、全体的に握力、長座体前屈、反復横跳び、ソフトボール投げが低い傾向が見られる。 ・運動が苦手だと感じる児童も、意欲的に運動できる場の設定や用具の工夫をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で、固定遊具を使った運動、柔軟性を高める運動、投能力を伸ばすための運動などを意図的に取り入れる。各種の基本的な動きや技能を身に付けられるように、各運動(運動遊び)の動きや技のポイントを明確にした場を設定する。 ・課題を解決するために、自分で練習の場を選んだり、友達と協働したりして解決することができるような学習活動を設定する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・その授業で学習しているキーセンテンスを使用して、決められた会話をすることはできるが、自分がすでに知っている言葉や表現も活用して、自分のことをより相手に伝えようと工夫する姿勢はまだ十分に身につけていない。 ・英文を書き写すことはできるが、読めない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌など、英語の音の流れを楽しめるような活動で外国語学習への意欲を高め、積極的に英語を聞き、繰り返し言うことで、進んで英語に慣れ親しもうとする態度を育成する。 ・キーセンテンスを使う場面や目的が明らかなアクティビティを、児童の実態や興味・関心に合わせて設定することで、実践的なやり取りを通して英語表現を身に付けられるようにする。 ・文字を見せながら読み聞かせたり、文を読ませたりする指導を行い、書くことへの指導につなげる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会を力強く生きる児童を目指し、向上心と柔軟性をもち、共生しようとする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれ、教材文から課題を見出すことはできるようになってくるが、その課題を実生活とむすびつけて考えたり、自分の問題として深めたりすることは難しい。 ・学習したことを実生活で活用する場面があまり見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやノートを活用し、考えたことや感じたことを詳しく書かせる。話し合い活動では、時間を十分に確保し、お互いの考えを共有し、広げられるようにする。 ・児童の気づきや思いをしっかりと認める声掛けを続ける。 ・友だちと自分との違いについて気づいたり、実生活と照らして考えたりできるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、他者と協働して取り組むことの意義を理解し、合意形成を図ろうとする資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの方法や合意形成の仕方がわかっていない児童がいる。 ・学級会を継続的に行っているクラスが少ないので、話し合いの経験が少ない児童が多い。 ・集会活動(お楽しみ会等)を実施しているが、振り返りをしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解決方法について理由などを比べ合いながら、合意形成を図ったり、協力し合って実践したりできるように、必要に応じて教師が児童に助言する。 ・学級会のツール(黒板掲示、司会台本等)を用意し、学級の実態に合わせて活用できるようにする。 ・集会活動実施後は振り返りをし、次回の集会活動に生かすことができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会や実生活の中から問題を発見し、疑問をもち、その課題を解決する資質・能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や気付きから児童が課題を立て解決することが難しい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもって課題解決できるよう、ワークシート等を活用し、学習の見通しをもって取り組めるようにする。 ・学び方や表現の仕方について、事例を挙げ、児童が選択できるようにもする。 ・タブレット端末のプレゼンテーションソフトを利用して、まとめる力や表現する力が付くように指導する。 ・外部講師を招いて、深く学習を進めていけるようにする。